

会議録

会議の名称	第11回茨木市こども育成支援会議
開催日時	平成26年10月27日(月) 午後6時30分～8時34分
開催場所	福祉文化会館 202号室
出席委員	岡本委員、木下委員、古賀委員、古座岩委員、敷知委員、城谷委員、下田平委員、高山委員、田中委員、福田委員、三角委員、米田委員 (五十音順)
欠席委員	奥本委員、金山委員、鳥居委員、平田委員、前田委員、松藤委員、宮武委員 (五十音順)
事務局	佐藤こども育成部長、岡こども政策課長、戸田こども政策課参事、東井こども政策課長代理、平林子育て支援課長、水嶋子育て支援総合センター所長、中井保育幼稚園課長、島本学童保育課長
案件	報告事項 (1) 子どもの貧困対策について (2) 茨木市総合計画(案)へのパブリックコメント募集について 議案審議 (1) 子育て短期支援事業(トワイライトステイ)の量の見込みと確保方策について (2) 子ども・子育てワークショップ
配布資料	資料1 茨木市次世代育成支援行動計画(第3期)子ども・子育てワークショップ実施要領 資料2 子どもの貧困対策に関する大綱について(平成26年8月29日閣議決定) 資料3 茨木市総合計画(案)へのパブリックコメント募集について【抜粋】 資料4 茨木市次世代育成支援行動計画(第3期)構成案 当日資料1 地域子ども・子育て支援事業の量の見込み及び確保の方策

発 言 者	発 言 内 容
司 会 岡課長	<p>ご案内の時間となりましたので、こども育成支援会議を開催いたします。本日も大変ご多用のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>開会にあたりまして、こども育成部長 佐藤からごあいさつを申し上げます。</p>
佐藤部長	<p>皆さん、こんばんは。第 11 回目になりますが、茨木市こども育成支援会議の開会にあたりまして、一言ごあいさつ申し上げます。</p> <p>本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。今日は木枯らし 1 号の吹く寒い中集まっていたいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>さて、本日と次回のこども育成支援会議では、委員の皆様にご3つのテーマに分かれていただき、ワークショップ形式でさせていただきたいと思っております。ワークショップでは、委員の皆様からご意見であったり、アイデアであったりを出していただき、議論を深めていただきまして、最終的には次世代育成支援行動計画(第3期)に反映してまいりたいと考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。簡単ではございますが、開会のあいさつとさせていただきます。</p>
司 会 岡課長	<p>次に、本日の委員の出席状況です。ご欠席のご連絡をいただいておりますのが、前田委員、宮武委員、松藤委員、金山委員、鳥居委員、奥本委員、平田委員となります。以上でございますが、半数以上の委員の皆様にご出席いただいておりますので、この会議は成立しております。なお、この後の会議の進行につきましては、条例の規定によりまして福田会長にお任せしたいと思ひます。福田会長、よろしくお願ひいたします。</p>
福田会長	<p>皆様こんばんは。それでは第 11 回茨木市こども育成支援会議を進めさせていただきます。</p> <p>本日の会議につきましては、事前に資料を送付しておりますが、3つのテーマに分かれていただき、ワークショップ形式で議論を深めていただきたいと考えております。ワークショップの進め方につきましては、後程事務局より説明させていただきます。まず、ワークショップに入る前に、前回会議でいくつか宿題をいただいているものと、報告案件がございますので、まずそちらから入っていきたいと思ひます。順次、担当者より説明をお願ひいたします。</p> <p>まず前回会議で私から質問しました、父親対象の子育て支援講座について、事務局から説明をお願ひいたします。</p>
事務局 東井課長代理	<p>前回会議で茨木市次世代育成支援行動計画(後期計画)の事業評価のところ、福田会長から父親対象の子育て支援講座について、平成 23 年度の開催回数が 20 回、それが平成 25 年になりますと 2 回、平成 23 年度の参加者数が 613 人だったところが、平成 25 年度 108 人と、開催回数・参加者数共に減少している中で、事業が継続となっているというところで、どうなのかというご意見をいただいております。</p> <p>担当課の人権・男女共生課へ確認したところ、父親対象の子育て講座の開催回数・参加者数は減少しておりますが、父親も含めた男性全般を対象にした講座を開催し、参加者数も増加しているとのこととあります。</p>

	<p>今後につきましても、父親や男性全般を対象にした講座の開催につきましても、その時々課題であったりニーズに対応した内容を検討しながら、継続して実施していくということです。以上となります。</p>
福田会長	<p>ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問等ございましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。大変分かりやすい説明だったと思います。ありがとうございます。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは次に、平田委員より質問をいただきました1歳8か月健診とファミリーサポートセンター事業について、事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局 東井課長代理	<p>こちら前回会議の次世代育成支援行動計画(後期計画)の事業評価のところで、平田委員のほうから1歳8か月健康診査の実施年齢について、かつては1歳6か月健康診査であったのが1歳8か月健康診査になった経過についてご質問がございました。</p> <p>担当課の保健医療課に確認しましたところ、平成15年度から対象者を1歳6か月時から1歳8か月時に変更しています。その理由としましては、これからの健康診査は、疾病や障害の発見だけでなく、親子関係・親子の心の状態の把握ができるように、そして育児の交流の場として話を聞いてもらえる安心の場として活用するように、育児支援に重点を置いた健診として充実させていくためであり、また、身体的・精神的発達を明確にすることができ、保護者に不必要な心配を与えることが少なくなると考えたためです。さらに、健診時期を1歳8か月にしたこと子ども発達状況だけでなく、子どもの持つ特徴も明確になっており、保健師だけでなく、親も子の持つ特徴を把握しているケースが多くなっております。このようなことから、1歳8か月の時期に健康診査を実施しているということでございます。以上です。</p>
福田会長	<p>ありがとうございます。1歳8か月健診の背景をご説明いただきましたが、委員の皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは続きまして、ファミリーサポートセンターについてよろしく願いいたします。</p>
事務局 平林課長	<p>ファミリーサポートセンター事業につきましてご質問をいただきまして、ご質問の内容は依頼会員のお宅でも実際にファミサポの預かり等ができないのかというご質問でございました。</p> <p>法令や制度につきましてですが、国の要綱等では援助会員と依頼会員の合意があれば可能となっております。傷害保険の適用という点が重要になってきますが、この点も依頼会員さんのお宅でも可能です。近隣市等の状況ですが、近隣市で実際にやっておられるところは、吹田市だけということになります。吹田市のほうでも条件を絞っておられまして、多胎児に限定をされ、その場合でも依頼会員と一緒にいらっしゃるということを条件に運用をしています。</p> <p>箕面市の例ですが、昨年7月から生後57日目から3歳の誕生日までと年齢を限定してスタートされましたが、トラブルがございまして、援助会員がその家にかかった電話に出てしまったというトラブルがございましたため、今年度は実際の実施は見合わせているという状況となっております。</p>

	<p>本市でのニーズにつきまして、今のところは特に要望はない状況でございます。依頼会員宅は援助会員からすると、使い慣れていないというところがございますので、使い勝手が分かり難いということがございます。どこに何があるかを間違えてしまったり、使った後元に戻す場所を間違えてしまうという可能性もございますし、物を破損してしまう可能性もございます。箕面市の例にもありましたように、電話に出てしまうことも考えられますので、色々な点で支障があるのではないかと考えるものでございます。以上でございます。</p>
<p>福田会長</p>	<p>ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお受けしたいと思えます。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。ありがとうございます。</p> <p>それでは次に、第9回・第10回こども育成支援会議の会議録の確認について、お願いしたいと思います。事前に事務局から各委員へ会議録案を送付させていただいたところ、特に修正等のご意見はございませんでした。会議録につきまして、何かご意見等がございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。それでは、以上をもちまして第9回・第10回の会議録を確定させていただきたいと思えます。ありがとうございます。</p> <p>それではお手元の次第に従いまして、報告事項に入らせていただきます。</p> <p>まずは1つ目、「子どもの貧困対策について」事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局 東井課長代理</p>	<p>それでは、子どもの貧困対策について説明をさせていただきます。委員の皆様には事前に資料を郵送で送付させていただいております。お手元の資料2という資料をご覧くださいませでしょうか。</p> <p>委員の皆さんも新聞やテレビ等で子どもの貧困対策という言葉をお聞きになられている方もおられると思うのですが、日本の子どもの貧困率は2012年が16.3%という数字となっており、これは先進国でも高い数値を示し、また、2010年の子どもの貧困率は、経済協力開発機構加盟の34か国中25位で、10番目に高い割合ともなっており、経済協力開発機構の平均を上回るような数字となっております。今後貧困が世代を超えて連鎖することがないように、取組が現在求められております。</p> <p>また、資料2の左下にも数値を示しておりますが、生活保護世帯の子どもの高等学校等の進学率、2013年の国のデータですが、全体が98.6%に対し、生活保護世帯は90.8%となっており、全体から比較すると7.8ポイント低い数字となっております。</p> <p>このような現状を背景といたしまして、国では子どもの貧困対策を総合的に推進することを目的に、平成26年1月に子どもの貧困対策の推進に関する法律を施行し、同年8月に子どもの貧困対策に関する大綱が示されたところでございます。大綱自体は24ページからなる文章ですが、本日は概要版として資料を用意させていただいております。</p> <p>資料の1枚目の左側ですが、大綱の基本的な方針といたしまして、貧困の世代間連鎖の解消と積極的な人材育成を目指すことや、子どもの貧困の実態を踏まえ</p>

	<p>て対策を推進するなど 10 の基本方針が確認され、生活保護世帯の子どもの高等学校等進学率など 25 の指標が示されております。また、指標の改善に向けまして、教育の支援、生活の支援、保護者に対する就労の支援、経済的支援など 6 つの重点施策が位置付けられ、当面 5 年間、集中的に取り組まれることとなります。1 枚めくっていただきますと、それぞれ基本方針、子どもの貧困に関する指標、当面の重点施策の詳細な内容も記載されておりますので、後程ご覧ください。</p> <p>この大綱を受け、本市におきましても、子どもの貧困対策の推進に関して関係部局間の連携を図り、総合的かつ効果的な施策を推進するため、子どもの貧困対策プロジェクトチームを今月 10 月 10 日に設置いたしました。既に第 1 回目のプロジェクト会議を 23 日に開催しております。</p> <p>プロジェクト会議では、国と同様に関係各課で子どもの貧困に関する指標の設定や、該当指標の改善に向けた施策の検討を行いまして、来年 1 月には子どもの貧困に関する指標の改善に向けた当面 5 年間の重点施策を、本市としてとりまとめしていくことと考えております。</p> <p>子どもの貧困対策プロジェクト会議で重点施策をとりまとめた際には、こども育成支援会議でもご報告をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。以上となります。</p>
<p>福田会長</p>	<p>ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは次に、2 つ目、「茨木市総合計画（案）へのパブリックコメント募集について」事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局 東井課長代理</p>	<p>次に「茨木市総合計画（案）へのパブリックコメント募集について」です。こちらも委員の皆様事前に配布させていただいております、資料 3 をご覧ください。</p> <p>総合計画は、これからの 10 年間本市をどんな「まち」にしていくのか、そのために誰がどんなことをしていくのかということ、総合的・体系的にまとめたものでございます。また、市の福祉や都市計画、環境、子育てなど、すべての計画の基本となるもので、いわば将来における茨木市のあるべき姿と進むべき方向を示した計画となります。</p> <p>現行の第 4 次総合計画は 2015 年 3 月に終了しますので、新たな計画として第 5 次総合計画の策定に向け取り組みを現在進めており、素案として取りまとめられましたので、パブリックコメントを現在募集しております。</p> <p>計画の素案は 200 ページからなりますが、本日の資料には子育てに関する内容を抜粋しております。資料 3 を 1 枚めくっていただきますと、計画の目次を示しております。「※印で網掛けか所は、資料をつけている項目です」と記載しているのですが、印刷時に網掛けが薄かったので消えてしまっております。申し訳ございません。資料の抜粋としては、目次の 29 ページの 1 「基本計画」の内容の（1）「基本計画の位置づけ」、（2）「基本計画の構成」、（3）「施策体系」と、4 「施策別計画」の第 1 章「ともに支え合い、健やかに暮らせるまち」の施策 5 と第 2 章「時代の社会を担う子どもたちを育むまち」をつけております。</p>

	<p>2枚目の下段に29ページと記載している資料をご覧ください。図で示している通り、総合計画は基本構想と基本計画の構成となっており、具体的な実施計画がその下にぶら下がることとなります。右側の30ページ、次の31ページには、基本構想を実現するための6つのまちの将来像と、まちづくりを支える基盤の施策体系を示しております。次の3枚目以降は子育てに関する計画の内容となります。</p> <p>先程も申し上げましたが、第5次総合計画は全ての計画の基本となります。子ども育成支援会議で現在ご審議いただいております、茨木市次世代育成支援行動計画も総合計画の下に位置づくものでございます。</p> <p>第5次茨木市総合計画（案）のパブリックコメントの意見等の募集期間は、1枚目に記載しているように、今月10月31日までとなっております。総合計画全体の公表場所はホームページ、以下、記載している関係施設に設置をしております。是非、委員の皆様にも内容をご確認いただき、ご意見等を郵送・FAX・メールでご提出をいただきたいと思いますと思っておりますので、よろしくお願いいたします。簡単ですが、以上で説明を終わります。</p>
<p>福田会長</p>	<p>ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお受けしたいと思っております。いかがでしょうか。また中をじっくり確認していただいて、パブリックコメントをいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは続きまして、議案の審議に入らせていただきたいと思います。まず1つ目ですが、「子育て短期支援事業（トワイライトステイ）の量の見込みと確保方策について」事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局 平林課長</p>	<p>当日資料1をご覧くださいと思います。量の見込みと確保の方策ということで、子育て短期支援事業は「ショートステイ」と「トワイライトステイ」がございまして、トワイライトステイのほうでございまして。具体的な内容としては、保護者が仕事等で恒常的に帰宅時間が夜間にわたるような場合で、概ね10時ぐらいいまでにわたる場合ですが、児童養護施設で一定期間預かっていただくものでございます。基本情報の欄ですが、提供区域は全市、対象家庭類型は全ての家庭類型、対象年齢は0歳から18歳未満を想定しております。下の量の見込みと確保の内容というところをご覧くださいなのですが、まず24年度の実績はゼロでございまして。25年度の実績は延べ76人ということになっております。実際に利用者の見込みですが、実績の数字をそのまま挙げさせていただいております。確保の内容として、受け入れ可能人数のところも同じ76人を挙げさせていただいております。見込数は同数とさせていただいておりますが、実際には、今の現状が使い難いというご意見をいただいておりますので、使いやすいように見直しをさせていただきたいと考えております。実施か所数のところですが、現在3か所の児童養護施設にお願いしております。このトワイライトの事業につきましては、毎回のお迎えとなりますので、現在と同様に市内の3施設にお願いをさせていただきたいと考えております。以上でございます。</p>
<p>事務局</p>	<p>すみません。本日トワイライト事業の量の見込みと確保方策をはじめ説明さ</p>

東井課長代理	せていただきました。この間、量の見込み及び確保方策の報告を大阪府を通じ国にする様式に、トワイライトステイ事業を報告する欄がなかったために、こども育成支援会議の場で皆様にご審議いただくということがございました。しかし、9月末に府を通じて国のほうから最終の量の見込みと確保方策の内容について照会がございました。その時の様式に、トワイライトステイ事業の欄が出てきましたので、本日トワイライトステイ事業を皆様にお諮りすることになりました。申し訳ございませんが、ご意見等よろしくお願いたします。
福田会長	ありがとうございます。ただいまの説明につきまして、ご意見、ご質問がございましたらお受けしたいと思います。いかがでしょうか。
岡本委員	ちょっと聞きもらしたのですが、利用者数の見込み人数は延べとおっしゃいましたか、それとも実数の人数ですか。
事務局 平林課長	延べ人数です。
岡本委員	実数は分かりますか。
事務局 平林課長	実際に利用された方の人数は、お1人でございます。お1人が76回ご利用になられています。
岡本委員	分かりました。ありがとうございます。
福田会長	ありがとうございます。続きまして、木下委員どうぞ。
木下委員	76と数字が極端に増えた理由が、今のご質問でだいたいイメージはついたのですが、この送り迎えは全部保護者がやるというイメージですか。
事務局 平林課長	はい。現在は、保護者が送り迎えをしていただくことが条件になっておりますので、どのように見直しをさせていただけるかは分かりませんが、送迎につきまして見直しを考えていきたいと思ひます。
木下委員	ありがとうございます。
福田会長	ありがとうございます。他いかがでしょうか。 茨木市域に3つの児童養護施設がありますので、そういう意味ではトワイライトステイをどう活用していくのかということが、実際的に検討可能になるかと思ひます。これから子育て支援を考えていく時に、できれば活用していきたい、もしくはこういった事業が活用できる地域というのが、豊かな子育てができるようなまちになっていくと思ひますので、使い勝手、もしくは有り様ですね、ご検討いただければと思ひます。どうぞよろしくお願いたします。 他よろしいでしょうか。ありがとうございます。それでは続きまして、今日の本題でございますが、「子ども・子育てワークショップ」について事務局から説明をお願いしたいと思ひます。
事務局 岡課長	お手元に資料1と書いていますホチキス止めの冊子と言ひますか、資料はございますか。お出しただけででしょうか。前もってお送りしてると思ひます。よろしいですか。 まず、冒頭からお詫びで申し訳ないのですが、「茨木市次世代育成支援行動計画第3期」と書いた下に「(仮称)」となっておりますが、この仮称は余分で、消して

おいてください。すみません。特に名称を決めるつもりはなくて、少し間違いがありました。「仮称」は取っておいてください。

今日ですが、前回からご案内していますように、ワークショップ形式でということに申し上げています。今回何故こういうことをしたのかということについて、少し時間をいただいでご説明したいと思います。

資料1の大きな1番の下に枠囲みであります「ワークショップ実施目的」と書いているところ、このところを確認しておきたいと思います。まず1つ目ですが、全員の皆さんに自由に意見を言ってもらいたいということです。これまでも10回以上会議の形で進めてきました。ですので、もう随分雰囲気には慣れていただいているかと思うのですが、やはりこういう意見を言ったらどうかとか、これはちょっと場違いではないのかなとか、筋違いじゃないのかなというようなことを思われながら、発言をためらっておられる委員もおられるかと思しますので、今回は、そういうことを一切払拭してもらって、少人数ですので、色々な思い付くところ、意見、お考えを述べていただけたらと思います。ただ、約束としては、発言した人に対して、いちいち反論してそれは合ってるとか間違ってるとかいう批判というのはいらないというのが1つ大きなルールとして下さい。また、特定個人を責めるとか、誹謗中傷の類のものについては当然の話ですが、控えていただくようお願いしたいと思います。

2つ目、いつもと違う雰囲気で、さっきも触れましたように大きく囲って10何人が1つの会議室ではなくて、今日は最大4人の方で顔が真正面、そばに見えるような形で話をしてもらいますので、遠慮なく発言してもらえたらなと思っています。

3つ目が、多くの知恵や考えを集めていきたいということです。言葉が適切かどうか分かりませんが、質より量ということで思っております。たくさんのお考え、意見、お考えを1人1つではなくて思い付くままに出していただくというのが、このワークショップの大きな目的ですので、お願いしたいと思います。

次に、大きな囲みの会議の中では、隣の人とお話しする程度なのですが、あえて少人数で集まっていただくということで、それぞれの考え方や、或いは認識を深めていただくということで、効果があるのかなと思って取り組んでいきたいと思っています。

最後のお互いの関係性のこともそうです。それとなく、なんとなく顔は知ってる、だいたい分かるという人達ですが、今日を機会にもう少し内面も見れるようなところがあつたらいいなということを期待しております。

今日、どういうふうに進めていくかですが、大きく3つのテーマを挙げ、それぞれグループに分かれてもらっています。1ページ目の2のところを今説明しようとしていますが、「対話」とそこから生まれた意見・アイデアを最後にまとめあげていただく。これには「KJ法」という手法を使ってグループワークをしていただくのですが、そもそもワークショップ、冒頭から簡単にワークショップ、ワークショップと言っていますが、これは何かということです。巻物の絵のところにありますように、何かについてアイデアを出し合います。ここではアイデアを

出し合うことを「対話」という言い方をしています。何か物事を決めていこうという会議の1つです。通常の会議と違うのは、自由に誰でもが意見を言いやすいように、場の設定であるとか人数であるとかを工夫してやっていきます。一種のゲームのような感じ、遊び感覚も入れながら、1つの物事についての考え方を取りまとめていきたいというもので、なかなか会議とは認識しにくいのですが、大変重要な会議というふうに位置付けられています。今回は、グループで1つのテーマについて、何か1つのきちんとした結論を出していただきたいということではなくて、その課題というのを洗い出してもらおうと。それを大きくグループ分けし、課題の抽出をするということ大きな目的にしています。次回も含め、その課題に対してどういうことを我々がやっていかないといけないか。ここでは、地域社会がしなければいけないことと言っていますが、市民であるとか事業者の方であるとか、或いは我々行政であるとか、それぞれの役割の中でどういったことに取り組んでいけるのかということ、まとめていたらなと思っています。ここで「KJ法」と出ています。参考に書いております。これは川喜田二郎さんという方が開発したもので「KJ法」と言っているのですが、1つの課題について色々なアイデアを出して、それを「ブレイン・ストーミング」という言い方をしていますが、要はこれを直訳すると「脳内の嵐」みたいな話なのですが、頭の中をいっぱい使ってもらって、思い付くこと、考えられることをたくさん出して欲しいということです。その考えを手元にあります小さな紙に思い付くまま書いていただいて、それを似たもの同士集めていって、小さなグループ、中グループ、大グループということに分類していって、そこでの課題というものの幾つかの方向性を探っていきたいというふうに思っております。

今日のテーマは3ページ以降に書いています。「若者支援」、それから「情報提供の機能のあり方」、3つ目が「少子化への対応」となっています。

7ページをご覧くださいませるか。今日の進め方になっています。「開会」「あいさつ」「オリエンテーション」となっていますが、オリエンテーションを今しています。全体進行は私が務めさせていただきますが、それぞれのテーブルに職員を配置しています。その職員がそのグループの進行役ということで、この後、会議を進めていきます。まず、自己紹介をしてもらいます。「アイスブレイク」と書いていますが、いわゆる気持ちをほぐしていただく。準備運動の作業を兼ねて、日頃、お顔は見ていただいている皆さん同士ですが、実際どんなお仕事されているのかということ少し触れてもらう中で、発言のしやすい雰囲気を作ってもらえたらなと思っています。それを各テーブルやっていた後、本来のグループワーク、ワークショップに入っていただきます。時間の管理はこちらのほうで進めていきますが、それぞれのテーマについての対話、つまり意見の出し合いをしてもらいます。それが30分ぐらい。その後、メモに書きだしていただいたものをグループ分けしていただくのが20分ぐらい。そこで出てきた意見を集約していくと、だいたいこれぐらいになるよという大グループまで仕上げてもらった後、そこでのテーマについての感想等を皆さんで確認してもらって、このグループではこういう課題を確認しましたという報告を、最後各班からしていただきます。進

	<p>行は先程言いましたように、職員がさせていただきますが、できましたら最後の報告ですね、ご参加の委員の皆さんお1人じゃなくて結構ですので、どなたかが発表をしていただけたらと思っております。全体で80分ぐらいになるかと思いません。随時ご案内しますが、そういう形で進めていきたいと思えます。今のところまで、よろしいでしょうか。</p> <p>ついで話みたいで申し訳ないのですが、今日資料4という1枚もの、表裏のプリントを用意しております。これは今度、第3期計画としてまとめ上げようとしている計画書の項立てと言いますか、節立てと言いますか、計画の項目になっています。縦に3つ分かれています、左端が現在の後期計画の組み立て、それに対して今回の新計画はこのように考えていきたい、その考え方の説明を右端に書いています。今動いています計画と大きく違うのは、ライフステージ毎に色々な施策を考えていきたいと。妊娠・出産期であるとか、就学前、或いは中学校、または青年、また大人になって結婚、妊娠、出産とぐるぐる回るイメージで、その時々によどのような支援が、我々行政なり或いは市民なりが手助けできるかなということを作り上げていきたいと思っています。今日の3つのテーマについても、次回、その課題に対してどんな取組みができるのかということ、グループワーク形式で考えていただきたいと思います。出てきた案も含めて、この計画の中に盛り込んでいこうということになっています。よろしいでしょうか。</p> <p>各テーブルに進行役が付きますので、細かな質問はそこでしてもらおうとして、この後、それぞれで進めていただきたいと思います。まず1つ目、7時35分ぐらいを目途にやっていただけたらと思えますので、よろしくお願ひします。</p>
	(グループワーク)
	(グループ発表)
<p>グループA 古座岩委員</p>	<p>○テーマ：「若者への支援のために必要なことを考える」</p> <p>若者支援について、3つのカテゴリーに分けたのですが、1つはお金で解決できそう、1つは社会的な目に見えない、何と言うんでしょうか、縛りのようなものと、あと地域や国などの制度を変えてみたらどうかという3つに分けました。最初話が出たのは、真ん中の表立っては何も見えないけど、縛られている感、常識ですよ。日本人が持っている常識に縛られてるから、今で言うと正規雇用、正社員にならなければ幸せになれないと考えているとしたら、正社員になれない人は不幸せ、多様性がないので、例えば大学を出てたくさん正規職員になれない人、一流会社に入れない人のほうが多いのですが、もしそれだけが幸せと思っているんだったら難しい。</p> <p>それで色々なシステムの中で出てきたのが、お金があったらできるけど、それ以外のことで考えましょうということで、地域での取組みなのですが、地域で色々な大人を見ると言うか、そういう場を提供してはどうかということで、今放課後子ども教室等では色々な取組みをしていますが、子ども達は身近な大人としては自分の親や先生、ちょっと大きくなった先輩とかぐらいですが、もっと多様な人達と接するシステム、そこで大学とか高校でボランティアの単位をとって、地域へ教員に行ったりすることをして、比較的年齢の近い大人と交流するシステムを</p>

	<p>作ってはどうか。</p> <p>あと、例えば病気の人、障害を持っている人、囚人の方等、色々な社会的背景を持って生きていらっしゃる方々との交流、そこで自分達が知っていることだけが社会ではないということを理解して、自分の将来を見てはどうか。また、日本の将来を考えたらどうかなということですか。</p> <p>さっきも日本人の価値観という話もあったのですが、結婚制度そのものも、私の隣にいる若い人たちに、何故結婚しないかと聞くと、今仕事をしていて実家にいるとそれなりにやっていけるが、結婚したらまず自分が家事をしなくちゃいけない、女の人ですが、子どもが産まれたら自分が子育てをしなくちゃいけない、とても大変だけど、子どもは欲しいけど結婚というシステムじゃなくて、実家で子どもを育てたい、みたいな人が結構多くて、そのほうが私ちゃんと働けるわ、とか、子育ても手伝ってもらえるわ、みたいな人が多く、端から結婚制度に幻滅している人が多いので、そういう社会的な縛りをもうちょっと自由に、多様性を認めてあげたら、自由な形でやっていても人から非難されないと思うと、子どもを産もうかなと思うのかなという印象があります。</p> <p>お金のところはあまり話題にはならなかったのですが、努力とかそれに相応する普通の未来が描けない、努力したら普通に家に住めて、普通に子どもを持てるという社会が描けないというのは、ちょっと可哀想だなと思います。以上です。</p>
<p>事務局 岡課長</p>	<p>ありがとうございます。少し少子化のことにも関わっていただきました。どうもありがとうございます。</p>
<p>グループC 木下委員</p>	<p>○テーマ：「少子化に歯止めをかけるために必要なことを考える」</p> <p>話をして最後に大事なことに気付かしまして、若者が結婚しなくなるのは何故だと思いかみたいな話をしたのですが、全員結婚してるんですね。欠席裁判みたいな話。ちょっとアカンなという結論が最後になって出てきたのですが。</p> <p>幾つか出てきた中で、ざっくばらんに話をしてきた中で、やっぱりお金の問題があるよねという話と、それから結婚に夢も希望も持てない、結婚って何、結婚ていいの？という話。自分じゃ無理という方も非常に多いのかなと。あと、先ほども出ていましたが、家のほうが居心地が良い。特に困らないし、結婚しなくて何か困ることがあるかと言うとないんですね。結婚しなくて困ることってほとんどなくて。女友達がいるかいらないかというのと、飲みに行く女友達がいるから女の子と喋らないわけでもないし、別に暗くもないし俺、みたいな。結婚しないと、制度の中に入っていないだけで、別に俺全然困ってないし、みたいなのが多いのかなと。あと、家族の事情が多いなんて話もありましたが、一人っ子なんで無理とか、お母さんが先立たれてしまったみたいな、お父さん、自分でやっているから妹もいるし、その中で結婚するのは無理とかですね。家族の反対が怖いとかというような話もありました。あと、自由が無くなるとか出会いが無いとかですね。ちょっと重要だなと思ったのは、今おせっかいな人がいなくなった。「結婚せえよお前」と言える人がいなくなったのは、結構大きいのかなと。結婚しろ、結婚しろと言うのは、ある意味差別的な話もありますが、ちょっとおせっかい、お前結婚せえよ、と押してくれる人がいないと、</p>

	<p>結婚しないのかなということも色々出てきましたね。全然まとまらないのですが。未婚率71%、ちょっと考えたいのは1975年、5ページのですね、1975年からぐっとグラフが上がってきているんですね。ここに出てきたのは、本人たちの意識の問題や育て方の問題という話があったのですが、それだけじゃこの数字の上がり方というのは説明しきれない。空気感、みんな昔は周りが結婚したんだから俺も結婚しなきゃな、私も結婚しなきゃなという。今はみんな結婚してないから俺も結婚しなくていいかという空気感にどこかで変わって、それが1975年ぐらいを境にぐいっと上がって、俺達結婚しなくても別にいいんじゃないというところにいった、何かしらがあるんだろうなというところは1つ考えたところです。</p> <p>あと、結婚したくないからしていないという理由もあるでしょうし、結婚できないからしていないという理由もある。単純に未婚率71%という数字は、喋りながら思ったのですが、したくないとか、できないとか根性がないとかだけではなくて、できないという人も当然いるでしょうし、しないことを選択している人も当然いるんだろうなというところを、色々思った次第です。</p>
事務局 岡課長	<p>ありがとうございます。今お聞きになって、この辺はどうかかなみたいなことがありますでしょうか。後ほど簡単にまとめて、こんなのが前回出ましたよというのを見てもらって、もう少し具体的に施策と言うか、事業といったもの考えてもらうための基にしたいと思います。ありがとうございます。</p> <p>では最後、お願いします。</p>
グループB 岡本委員	<p>○テーマ：「情報提供機能を高めるために必要なことを考える」</p> <p>私共は情報提供というところでもございました。まず、情報提供ですが、どんな情報かなというのがある。ここに資料がありますが、もう少し体系的に、例えば教育に関するものとか、育児に関するものとか、子育てに関することぐらいですね、それに合わせたものかなというのは思ったのですが、フリーでやりましょうということで議論しました。そうすると、まず色々な情報というのは何があるの、どんなものがあるんですか、と知らない分野がいっぱいあります。聞こうと思っても、自分は何を聞きたいのか分からない人もいます。実は子どもが急に病気になったから何かしたいんだという、教えてよというのもあれば、病院に連れていきたいんだけど、小さい子がいるから預けたい、だけでも分からないというのもある。それをどこかで聞いたり、一部だけの情報でもってやっている。ということで、知っている人はいいのですが、知らない人はどうしたらいいのかというところが1つありますね。</p> <p>もう1つは、情報というのは色々なツールがあります。例えば今日、非常に良いなと思ったのは、この子育てハンドブック。これ、非常によくまとまっています。これいつもらえるのですかと聞きますと、母子手帳をいただいた時、あとは、自分でちょうどいと言えどもらえらと。じゃあそれ、メンテナンスされていますよね。自分ではもらいに行かないという意見がありますね。例えば、市の広報をテレビなんかではやっていないですかと聞くと、茨木市はやっていない。ちょっとでもいいからそういうことをやっていけば情報発信としていけるんじゃないでしょうかとか。もしくはパソコンの話ですが、見れる人、パソコンがない人もい</p>

	<p>るかも分からない。でも、ホームページに全部そういったことを入れておいたら、大半の人が今見に行けるとは思うんです。今スマホなんかは非常に売れてますから、多分そういったところで使える。そういう色々なツールの用意をしていってはどうなのでしょう。電話でもいいです。電話番号も書いてある。さっき、民生委員なんかは困ったら携帯電話が鳴ると。ちょっと個人情報に関連するので疑問を持ちましたが。そういうツールのところをもっていって、そういうものを利用して色々な施策の回答ができるようにしたらいいなど。例えば、何かの体系図があって、ここを見ればこの人、ここに電話して聞くなり、ホームページを見たらいいとか出てくる。ということは、関心がないのかも分かりませんが、やはり問い合わせして知りたいんだというところで、最後にいったのが、ここへ相談すればまずは総合受付と言いますか、コンシェルジュと最近よく言っている、案内係がいて、その人がどこかに繋いでくれるとかね。最後自分の言いたいところを全部聞ける。質問とかこういったのは、文章って非常に簡潔に正しく書かないと伝わらないけど、言葉というのは言い直しがきくんですよね。だから、何かそういうツールが人の優しさだとか、よりコミュニケーションを取って人間関係が良くなる元じゃないかなと。挨拶もそうだとおっしゃっていますよね。だからそういうような、何かものの回答が、手間がかかるかも分からないけどできたらいいんじゃないかな。でも、機械的にやりたい人は、色々な電子情報なりでやってもいいわけですから、セットで考えていかないといけないのかな、というのはあります。最後なのですが、他色々なチラシとかどこかの公的機関に行くといっぱいあるんだけど、そこにあるだけであって、利用されるようになっているんでしょうかとか、例えばこども110番というのがありましたが、どこのどの場所がこども110番の場所なのか、これ、あまり知らないんですよね。知らないけれども、その他の事項としてまとめちゃう。総じて情報って何でしょうかというところから始まったのですが、非常に制度よくパンフレットとかができているんだけど、もう少し体系的に親切に回答できるようなことをやっていければ、今あるもので十分機能するんじゃないかというふうには私は思いました。これが、最後まとめて勝手に言っていますが、以上でございます。</p>
<p>事務局 岡課長</p>	<p>ありがとうございます。このグループは最初苦労なさっていました。どうなるかなと思っていましたが、最後追い込みをかけていただいて、ありがとうございます。助かりました。この件について、何かご質問などありますでしょうか。ご意見とか。よろしいでしょうか。一番目の若者支援のほうもちょっと見てもらって。もし何かお聞きになりたいこととか、ご意見とかありましたら。</p>
<p>木下委員</p>	<p>若者って、地方行政に何かしら期待しているんですかね。素朴な疑問なのですが。特に茨木とかは大学が多くて、一人暮らしの子が多いと思うんです。結構地方から出てきてる子が多い。結局何か起きた時に親を頼れない部分で、すごく行政に期待したい部分とかあるんじゃないのかなとちらっと思いました。自分が大学生の時、若者の時に自分の住んでいた市役所に何回行ったかな、ほとんど行ってないなみたいな。行政機関って警察ぐらい。警察にはお世話になりたくないなぐらいしかなくて、元々、行政と若者の接点というものが、何かすごく希薄で、</p>

	<p>ほとんど意識してない。自分の学校は意識するけどとか、自分の職場の環境は意識するけど、居酒屋さんは意識するけどというのはあるのかなど。</p>
<p>事務局 岡課長</p>	<p>さきほどの情報とも関わってくるかもしれないですが、何が聞きたいのか分からない、頼っていいところという対象で行政が見てもらえているかどうかというところも含めて。特に中学校を出ての義務教育が終わってからというのは、本当に市の教育委員会も、高校で言うと府立高校とか或いは私学とかになってくるので、身近な行政との繋がりほとんどなくなってくるというのは、実感ですね。お互いそうですね、我々もそうですし、若者達もそうなのかなど。そこで埋もれていってしまっている、自分達も苦しんでるけど、どこにどうやっていいのか分からないという子ども達をこの頃見るので、そののところが何か手助けできる方法をということで、今1つテーマにさせてもらったところです。そういうところを見ていきたいなど。これは、若者が望む望まざるに関わらず、やっぱり何かアプローチしてあげないといけない部分があるんだろうと思って、テーマとしてあげさせてもらいました。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>今の若者という言い方、我々のメンバーも含めてですが、どうあって欲しいのかという部分と、それから若者のほうから見て何をして欲しいのか、その両方から見ないと今の答えはちょっと出てこないのではないかなと思うんです。例えば若者にしたって、家庭で小さい時から親を見ているわけです。四六時中見ているわけですね。どこか取り入れているんです。そこに何かのまずさがあるから、色々なまずい方向にいたり、それは色々な出会いだとか何かのきっかけがあるんでしょうけど、そこに対して色々な施策、せつかくこんな良い制度があるんだから、どういうタイミングで利用してもらおうかというところだと思うんです。マイナス方向にいった人をどんなふうに変更させるのかという、させるのではなくてそういう道があるよと知らせるだけで、チャンスさえあればと思うんですね。それを見ればいいんだけど、今度逆に言うと失礼かも分かりませんが、色眼鏡つけて見ちゃって、せつくなおりにかけてもまた逆になると、いうふうなことになっている。社会の中では仕方ないのかも分からないけども。そういったところで、どこまでのことを考えているかという、若者の行く先が分からないような気がしたんですけどね。</p>
<p>事務局 岡課長</p>	<p>我々が追いかけて過ぎみたいな。</p>
<p>岡本委員</p>	<p>追いかけるところが、どこの範疇までイメージするのか。ここである部分というのは何なのか。テーマは分かるんだけど。</p>
<p>敷知委員</p>	<p>話をしている、日本人の特性として周りよりもちょっと抜きん出て競争に勝つということ、あまり日本人は良いとは思わなくて、横並びで皆が幸せになることを重視する民族じゃないですか、という話をしている、だから災害で困った時は一致団結してできる素晴らしい特性を持っているのに、諸外国と比べて幸せかどうかという尺度を見ると、自分は幸福ですかと言うと幸福というのをあまり大きく言えない、言うとか何かそれが却って自分をマイナスイメージにしてしまうようなことで、まず国として市としてそういう結婚制度の変更なんかもそうだった</p>

	<p>んだけど、そういうところを、意識を外圧で変えていくことで、そういうものも幸せとして見てもいいんじゃないのということを言ってあげないと、今の若者は何か行政に対して、香港でああいうデモを起こすようなエネルギーもないし、そういうところが日本人の良いところで悪いところなのかなというのがありますね。</p>
城谷委員	<p>これは言いつくされたことだろうと思うのですが、将来に希望を持てるということは、やっぱり自尊感情、自分を好きだ、人を好きだとかいう、そういう感情を育てなければならぬと思うんです。そのためには、やっぱり家庭教育であったり、もちろん学校教育であったりということをおね、やっぱりもう少し見直していかないと本格的にその辺のところにもメスを入れるとか、逆に本当にそういうふうな子どもへの対応の仕方をしていられるのだろうかというようなことをおね、やっぱり考えていかなきゃならないと思うんですよ。最近ひとつ耳にした例で、小学校で校長先生が代わられた。私達は良い先生だと思っていたのですが、6年生の子どもが、「友達のような感覚で話をしてくれたけど、自分達の名前を呼び捨てられていたというようなことに対して、そういうことがあって今度は良くなったということで、保護者も学校も変わってきた」というようなことをおっしゃっていただけます。だから、小さな細かいことかも知れないけれども、子どもの心を育てていくというそういう教育をしていかないと、どうしても大阪の人達は言葉が荒いですよ。それがひとつのコミュニケーションであったり、親子の関係であるから、それが良しとされているけれども、やはり相手に対して人格を認めながら、きっちりだからこうなんだよ、というような言い方をしないと、その辺のところの教育の在り方とか、親子の関わり方だとかいうようなことを、しっかりと見直していかないと、自分が希望を持てるとか自分を好きになれないというように、私は自分の今までの経験からそのように思います。その辺のところを見直していくというのが大事なんだろうなと思います。</p>
事務局 岡課長	<p>ありがとうございます。岡本さんがおっしゃっていただいた、どういうところを目指すのかというのは、今、城谷委員がおっしゃったように、自分を大事にできるとか、自分が自分であっていいと思えるような子ども、青年になってもらいたいというようなことを発言いただきました。</p> <p>すみません、お時間になってしまいましたので、引き続きさっき言いましたようにもう少しまとめようと思います。次回、またグループ変わってまいります。もう少し具体的な対策とか施策の案を、皆さんに出していただきたいと思っております。ちょっと時間オーバーしましたが、会長のほうにマイクを返したいと思います。</p>
福田会長	<p>皆さんどうもお疲れさまでした。私の時間は何分あるのかなと思っていたら、ほとんどなかったようです。何度か私ここで申し上げております、これから先5年、更にその先の子どもの近未来をどう作っていくのか。多分今日の議論は、そこに繋がる部分がたくさんあったのではないかなというふうに思います。時間でございますので、またチャンスをいただければと思います。</p> <p>最後でございますが、事務局から次回の説明をよろしくお願いたします。</p>
事務局	<p>最後になりますが、11月25日に開催します次回の会議ですが、午後6時30分</p>

東井課長代理	<p>から市役所の南館 10 階で開催します。本日、第 12 回茨木市こども育成会議出欠表を皆さんのお手元に配布しておりますので、そちらのほうをご確認いただき、11 月 7 日金曜日までに F A X ・ メール等でご返事をお願いしたいと考えております。次回はこのワークショップの引き続きの課題の整理等で進めさせていただきたいと思っています。</p> <p>第 13 回・14 回のこども育成支援会議の日程も決まりましたので、とりあえず口頭でお伝えさせていただきますので、メモ等をよろしくお願ひします。第 13 回のこども育成支援会議は、12 月 21 日日曜日です。午前 9 時 30 分から市役所南館 8 階の中会議室で行います。第 14 回のこども育成支援会議は、年が明けまして 1 月 25 日日曜日のお昼 1 時 30 分から市役所南館の 10 階大会議室で開催いたします。当初、1 月 10 日でお知らせをしておりましたが、変更となっておりますのでお間違えのないようによろしくお願ひいたします。連絡は以上となります。</p>
福田会長	<p>ありがとうございました。本日は以上となります。これを持ちまして、こども育成支援会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。</p>

グループA 若者支援

お金

親への依存の長期化

社会的・経済的に格差がある

金銭的な不安を減らす

教育の無償化

赤ちゃんにお金がかかるので病院は無償にする

子育てはお金がかかるので子ども手当を増やす

住居が高いから市営住宅を増やす

高校・大学の学費が高いから教育費の補助を充実する

日本人は仲間意識が強いから発想を変える

多様性を伸ばす

社会の仕組みにも問題がある

若者の自立のための環境整備が必要

大学生が地域で活動することで単位が得られるようにする

結婚制度の変更

失敗や回り道を許す社会

幸せは何か考える

社会への関心の希薄化

コミュニケーション不足から社会に馴染めない

若者の社会的自立の遅れ

若者の雇用問題

NPO学団に協力を得て連携する

生活保護世帯の若者の就労支援

対人関係を築く能力の不足

独身が優遇されているから若夫婦に支援する

若者の意欲が欠如

若い社会人との交流

問題を抱える若者の相談窓口は？

知らない

支援事業を知らない
どうすれば知りやすいかを聞いてみる

情報を知りたがっている
細かい情報提供をする

民生委員さんの存在が大切、情報発信

情報を知らない人が多い
機会がある時、いろんな時に知らせる

ツール

市広報のTVがあれば情報発信され
市民の理解が得られる

茨木市ホームページ掲載と記されているがパソコンがない、使い方が分からない

携帯電話に情報を流す部門別

子育てハンドブックをHPで閲覧できるようにしては

解答

子ども支援策の体系図が分かっていない
(どんな情報がどこにある)

単身赴任者において関心がないものの業務上、社員の問い合わせにおいて解答できないことがある

問い合わせ(TEL)しても、たらい回しで中断する
(諦めることあり)

若い人(主婦は)は冊子等あまり見ない

相談したい、最後まで付き合う

市民として情報の在り処が分からない
どこに問い合わせればよいか分からない

相談窓口がパンフに記載されているが総合窓口(コンシェルジュ)があってもよいのでは

気軽に相談できる場所→広場→専門知識を持った人(ないし研修を受ける)

グループB 情報提供機能

その他

情報のチラシがあるが公的機関などに限定されている

情報発信の場所を誰もが集まるコンビニ等にする

子ども110番のPRが行き届いていない
表示をもっとしつかりと

希望・夢

消極的・ネガティブな事ばかり先に考えてしまう

結婚生活を出来るか自信がない

自分が母親(嫁)になると思えない

楽しそうじゃない

自分じゃ無理

結婚生活には辛抱や、やめないといけない事が多いと感じている

漠然と「結婚」は考えていても、恋人関係から何故かもう一步踏み出せない(男側)

親が幸せそうじゃない

苦勞を嫌がる

チャレンジ精神が足りない

男がだらしない

女が強い

自由がなくなる

出会いが無い?

お節介おばちゃんいない

結婚生活を具体的にイメージできない

家庭・家族

兄弟状況(ひとりっ子)なので、養子をもらえないと無理

家族の反対が怖い

先行、世の中、不明不安

情報が多すぎ

金

正社員になれず収入が少ない

仕事安定しない

お金がない

グループC 少子化に歯止め

必要性を感じない

結婚より魅力的な生き方がある

実家が心地良い

定職を好まない

彼・彼女がいても「結婚」より「仲間」の方が楽?心地良い?

特に困らない

結婚も車もいらぬ男